

事務事業評価表 平成24年度

政策 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実
 施策 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造
 基本事業 文化・歴史遺産の保存と継承

事業名 **屯田資料館管理運営経費**

[5234]

部名	教育部	事業開始年度	平成7年度	実施計画事業認定	非対象
課名	郷土資料館	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>屯田資料館 野幌屯田兵屋</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>施設が適切に運営管理され、江別に礎を築いた屯田兵に対する理解が深まる。</p>
	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>・屯田資料館及び野幌屯田兵屋の維持管理に要する経費。 道指定文化財「野幌屯田兵中隊本部」の保存管理と公開。</p>
	手段

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度当初
対象指標1	施設数	施設	2	2	2	2
対象指標2						
活動指標1	屯田資料館開館日数	日	69	70	66	60
活動指標2	屯田兵屋開館日数	日	10	17	9	5
成果指標1	屯田資料館来館者数	人	591	765	408	500
成果指標2	屯田兵屋来館者数	人	902	1,155	459	400
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	1,765	2,246	2,308	2,301
正職員人件費 (B)		千円	1,660	1,612	1,605	1,619
総事業費 (A) + (B)		千円	3,425	3,858	3,913	3,920

費用内訳	
23年度	報酬 544千円、需用費 134千円、役務費 32千円、委託料 1,598千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	郷土の歴史的建造物の保存と活用	事業を取り巻く環境変化	
--------	-----------------	-------------	--

23年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・
根拠は？

江別市郷土資料館条例及び施行規則

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・
根拠は？

昭和33年北海道指定有形文化財「野幌屯田兵第二中隊本部」等を保存・公開し生涯学習の推進及び文化の振興に寄与している。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・
根拠は？

来館者数は多いとはいえないが、歴史的建造物の保存と活用は図られている。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は？

ボランティアの育成などによる活用の促進。
野幌屯田兵屋は、平成21年度から一般の方を対象に5月～9月の間、毎月1回夏期開館している。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

- ある
- ない

理由・
根拠は？

平成14年度より夏場の土日祝日だけの開館に限定し、最大限経費の節減に努めている。